

学生大使 実施報告書

氏名：紺野かすみ

学部・学科（コース）・学年：地域教育文化学部・文化創生コース・2年

派遣先大学：ベトナム国家農業大学

派遣期間：2023/9/5～2023/9/18

1 日本語教室での活動内容

平日の18時から19時30分までの一時間半授業を行った。日本語クラスに来た学生の個人のレベルを考慮しながら、初級・中級・上級の3つのグループに分け、グループに一人ずつ山形大学の学生が付いた。

具体的な活動内容として、初級レベルのグループには平仮名50音の発音の仕方や書き方を教え、その後濁点や半濁点等の発音の仕方や書き方、日本語の挨拶の言い方を教えた。中級レベルのグループには、簡単な単語から難しい単語、また数の数え方などを教えた。上級レベルのグループでは日常会話や日本語の中での学生の疑問について答える、また一人の学生がある絵を見て、その絵の内容の特徴を相手の学生に日本語で伝え、相手の学生はその絵に描いてあるものが何であるのかを当てるといったゲーム等を行った。他にも、平仮名とその平仮名から始まる絵が書いてある手作りの「かるた」を全員で行ったりもした。

3つのグループに分けたものの新規の学生が毎日来るため、学生に合わせて授業内容を調整し、初級レベルの学生が多いような際は初級レベルのグループを二つに分け、山大生がそれぞれ付き、上級レベルの学生は自分たちで日本語での会話を深めたり、ゲームを行ってもらったもした。

2 日本語教室以外での交流活動

日本語教室以外での交流活動としては、現地の学生の英語クラスへの参加、「日向クラブ」やその他の日本語を勉強している学生とのパーティ、また他のサークルである「オーサムクラブ」との交流会があった。

現地の学生の英語クラスへの参加の内容としては、日本文化や日本の挨拶等を現地の学生に英語で紹介するものであり、私たちは2つのクラスに参加させてもらった。最初のクラスでは日本の挨拶の仕方や簡単なフレーズを三人で分担して学生に紹介し、次のクラスではそれぞれ3つのグループに分かれて日本の文化についてプレゼンテーションを行った。

現地学生とのパーティは、みんなで日本語のゲームを行うというものであった。ゲームの内容は全て「日向クラブ」の学生が企画して下さった。大体のゲームがいくつかのグループに分かれ、グループごとに景品を目指して競うというものであった。

「オーサムクラブ」との交流会とは、環境保全サークルである「オーサムクラブ」の学生と「日向クラブ」の学生、またその他の交流会に混ざりたいという学生たちと一緒に様々なゲームを行うというものであった。そのゲームも全て「オーサムクラブ」と「日向クラブ」が企画して下さった。「オーサムクラブ」の学生のほとんどが日本語を話すことが出来ない学生であったが、どの学生も親切

【学生大使 実施報告書】

であり非常に楽しい交流会であった。

3 参加目標への達成度と努力した内容

私の参加目標は大きく分けると、現地の学生に分かりやすい授業を行う、ベトナムの良さを知る、ベトナムの学生との違いと共通点を見つけるという3点であった。

現地の学生に分かりやすい授業を行うという目標については、自分的にはかなり達成することが出来たと思う。授業の中で学生たちに直接教えてほしいことがあるのかを聞いたり、学生個人の日本語のレベルを考慮して、授業を進めたりするなど学生一人一人と向き合った授業ができたのではないと思う。

また、ベトナムの良さを知るという目標も達成できた。現地の学生からベトナムの文化、食、土地、人々についての様々なことを教えてもらい、ベトナムに渡航する前は知らなかったベトナムの良さをたくさん知ることが出来た。自分から積極的に現地の学生にベトナムについての質問をしたり、多くのことに挑戦出来たためベトナムへの理解を深めることが出来た。

ベトナムの学生との違いと共通点を見つけるという目標も個人的には達成できた方なのではないかと思う。現地の学生と多くの時間を一緒に過ごしているうちに、学生たちは日本の学生たちと何ら変わらないということが分かった。唯一、少し考え方が日本と違っていると感じたことは恋愛についてであり、特に大きく異なっていることは無いように感じた。現地の学生と多くの時間を共有する中で、喜びや悲しみ、時には悩み等をお互い共有し合えたことが非常に嬉しかった。

4 プログラムに参加した感想

プログラムに参加した感想は「自分を成長させる最高の2週間」であったということだ。渡航する前は初めての海外、また英語が苦手であったこともあり不安の方が大きかった。しかし実際ベトナムに行き、みんなと過ごしてみると毎日が楽しく、勉強になった。2週間の間で上手いかわなくて悩んだ時もあったが、周りの人の支えのおかげで乗り越えることができた。現地の学生は不慣れな私たちに対して非常に親切であり、様々なことを教えてくださった。ベトナムの人々と会うことが出来て本当に良かった。またベトナムは確かに日本と比べると不便である部分はあるが、とても良い場所であった。ベトナムに行くことが出来て本当に良かったと思う。このプログラムを通して、自分の可能性と視野を広げることが出来た。自分にとって一生忘れることのない思い出になり、自分を成長させる非常に良い経験になった。

5 今回の経験を踏まえた今後の展望

今回ベトナムに行って一つ心残りであったことは、英語を上手く話すことが出来なかったということである。現地の学生は日本語を話せる学生もいるが、日本語をまだ上手に話せない学生もいる。その中で日本語をあまり話せない学生の中で英語を話せる学生が何人かいた。しかし私は英語が得意ではなかったため、英語を話すことを躊躇してしまい、そのような学生とあまり会話を深めることが出来なかった。今考えてみると、例えば自分が英語を得意ではないとしても積極的に話しかけに行くべきであったと思う。

自分にもっと自信をつける、様々な境遇の人とコミュニケーションをとるためにも、今後英語の

【学生大使 実施報告書】

勉強を強化していきたと思った。自分で勉強するのはもちろんのこと、英会話教室に通ったり、検定を積極的に受講するなど自分がしたいことにどんどん挑戦していこうと思う。



バッチャン



ホアンキエム湖

【学生大使 実施報告書】



交流会



日本語教室